

取組事例 ウポポイ（民族共生象徴空間）を中心とした多文化共生のふるさとづくりの推進 （白老町）

白老町では、「ウポポイ(民族共生象徴空間)」の整備を契機に、世界に拓かれたまちを目指し、多文化共生によるまちづくりを進め、町民が誇りと愛着を持てるようなふるさとづくりを推進している。

関連数値目標・KPI

	基準値 (H26)	実績 (H30)	目標値 (R元)	進捗率 (%)
「多文化共生、アイヌ文化の理解・普及が高まっている」と考える町民の割合	0%	38.7%	70.0%	55.3
「多文化共生(アイヌ文化・外国文化)に関する教育が推進されている」と考える町民の割合	0%	26.9%	70.0%	38.4
おもてなしガイド数	0人	12人	30人	40.0

取組の推進体制

町を中心に、民間事業者・団体やNPO法人、各種学校、学術専門家、国、道などと連携して取組を推進。また、産官学金労言や住民などで構成される「白老町まち・ひと・しごと創生有識者会議」において、取組状況及び成果の検証を実施。

ウポポイ(民族共生象徴空間)の概要

日本の貴重な文化でありながら存立の危機にあるアイヌ文化の復興・発展のための拠点となるナショナルセンター。

国立アイヌ民族博物館	アイヌ民族の視点で語る多彩な展示で歴史や文化を紹介する。
国立民族共生公園	体験型フィールドミュージアムとして、古式舞踊の公演や多様な体験プログラムを通じてアイヌ文化を体感できる。
慰霊施設	アイヌの方々による尊厳ある慰霊を実現するための施設。

取組事例 受入体制の充実と人材育成

来訪者受入体制の整備

- 主な取組
 - ・体験プログラムや周遊モデルコースを造成
 - ・おもてなしガイド指導者を育成
 - ・アイヌ文化を基にした商品を開発
 - ・民間団体が行う事業への支援 等
- 主な成果
 - ・おもてなしガイド12人を養成
 - ・個人旅行客向け観光体験プログラムを5件企画



グローバルに活躍できる人材の育成

- 主な取組
 - ・地域コミュニティの強化を目的とした「白老みらい創りプロジェクト」を実施
 - ・多文化共生について身近な事柄をテーマに考えるシンポジウムを開催
- 主な成果
 - ・「プロジェクト」における対話を延べ8回開催し434人が参加
 - ・シンポジウムを延べ3回開催し593人が参加

